

令和 7 年度第 2 回学校運営協議会議事録

日 時：令和 7 年 11 月 8 日（土）午前 9 時 30 分～12 時 00 分

場 所：静岡中央高校中会議室

参加者：委員 5 名（欠席 1 名）

本校管理職 8 名（校長、副校長 4 名、教頭 2 名、主幹）

（出席確認後、開会式を見学）

1 校長挨拶

2 自己紹介

3 開会式の感想

4 学校より報告

<定時制・副校長より>

「ダイバーシティハイスクールの実現」として昨年度から県の行きたい学校づくりの指定を受けて取り組んでいる。今年度は各課程の特色化、魅力化に向けた ICT の活用の研究として、1 人 1 台端末を重視している。端末を用意したが活用しないことがないように、教材の提示だけでなく、学習の支援システムについての検証もしている。また、生徒の情報のデジタル管理については、デジタルで一元化できないか研究を進めていく。SSW と SC による相談も受けているが、その情報を共有できる取り組みを考えていく。定時制と通信制が連携できる生徒情報の一元化を見据えて、検証を進めていく。さらに、定通連携の実現に向けて、定通のスムーズな転籍の方法等について探りたい。

<通信制・副校長より>

文化祭に通信制も参入する等、定通連携の改革を進める必要があると思っている。通信制も定時制と同じ項目で研究をしており、課題も見えてきた。ICT を活用したオンラインスクーリングの研究がある。自学自習が通信制の本質だが、1 人では学習が進まない生徒や協働的な学びの部分で、オンラインスクーリングで解決できないか研究を進めている。

5 意見交換

<委員より>

通信制の生徒も静岡中央高校に在籍しているので、文化祭に少しでも出ることができたら良い。

<委員より>

事情のある生徒に対するオンラインスクーリングの取り組みは、個別の支援のレベルか、合理的配慮で学ぶ権利を保証するためか。デジタル化のなかを多様にしないと生徒が学びにくくなると感じる。ICTを活用した学びを今後どのように展開していくのか。

<通信制・副校長より>

通信制の課程はスクーリングの全部をオンラインにすることはできない。オンラインスクーリングは「減免措置」として行い、スクーリングとしては必要最低限の回数だけ登校することになる。個別でどれだけ支援できるかは今後の課題でもある。ICTを活用することに関しては、昨年度の「行きたい学校づくり」の事業から始まり、遅れている状況。学び方の部分は今後の課題になる。

<通信制・副校長より>

基本的に通信制の学びは教科の教科書があって、それに基づいたレポートに取り組む流れで進む。生徒がレポートを作成する際に教科書を見ながら、AIを活用して考えながら作成して提出することになる。それを教員が受け取り、添削指導をして学習が進む。

<校長より>

オンラインスクーリングに関してはいろいろな意味を持って試行している。本校は端末の準備はできているので、卒業して社会に出ていく生徒にICTを活用できる力を身に付けるための支援をする環境が求められている。

<定時制・副校長より>

本校は基本的な学習の習慣や方法が身に付いていない生徒が多い。学習の基本的な部分が抜けていると感じる。学校の学習でなく、日常生活における情報の扱いについては、情報モラルの教育の必要も感じている。

<委員より>

生徒が多様な学び方に出会いつつ、選択できる力が必要だと思う。自分の学び方を選ぶことで自己理解にも繋がり、キャリア教育とも関わる。多様な学びに出会って自分で選択できるようなカリキュラムがあると良い。

<委員より>

インターンシップを実施してそのまま就職に繋がるケースはどの程度あるのか。また、就職後のアフターフォローや企業から生徒についての相談があった場合の対応はしているか。

<定時制・副校長より>

インターンシップに関しては、大学進学希望の生徒も一度は参加する方向で、商工会議所、NPO と連携して進めている。参加したところに就職することが理想だが、本校はイコールになっていない。アフターフォローに関しても教員が生徒の就職先に行くような対応はしていない。離職後ではなくて、困った時、つらい時に相談できる体制が必要と考えている。企業や商工会議所と連携して、学校ができる部分と関係機関にお願いする部分を明確にして、生徒を支える体制を考えていかなければいけない。本校の生徒の就職に関して、一番弱みになっているのは欠席日数で、企業からはとにかく毎日出勤できれば会社で教える、育てると言われている。

<校長より>

ダイレクトに就職して通用する生徒もいるが、多様な背景のある生徒もいるのが現実のため、本校の実情も踏まえてもらいながら就職に結びつけていく、その体制が少しずつできている。

<委員より>

企業では特性のある生徒を根性論や怠慢で簡単に納めてしまうところがまだ多くあるが、少しずつ理解が浸透してきていると感じる。生徒の多様性を理解してもらいたいと思っている。相談や企業のインターンシップも ICT を活用することを計画して良い。ICT 環境を整備して生徒が学び方を選べる体制をつくってもらえればと思う。

<委員より>

通信制の教育において対面の部分は必要で構築しなければならない。小中の学習ができていない生徒もいるので、オンラインで学習しても理解できない。対面で説明して、小中の内容に戻らないと学習が前に進まない。すべてオンラインで進めると混乱すると思う。インターンシップは生徒の希望する職業が具体的な場合は意味がある。定時制の欠席日数は確かに弱みとしてあるが、逆に通信制は数字で示されないのでスムーズに進む可能性がある。現場は大変だと思うが取り組みを進めてほしい。

この意見交換を通じて、「ダイバーシティハイスクール」の取り組みの進捗状況、本校が抱える生徒の多様性への対応、学習支援、教員の負担、地域連携、将来的な学校の在り方等、多岐にわたる課題と委員からの意見、学校の方針が共有された。

6 文化祭見学

7 事務連絡

- ・第3回学校運営協議会（令和8年2月上旬予定）